

# 脳卒中センター機能を拡充

## 市内最大規模の集中治療室12床

名戸ヶ谷病院（松澤和人院長）は9月から、24時間365日対応の脳卒中センターに新たに脳卒中集中治療室（SCU）を12床新設した。運用する脳神経外科によると、11月末現在の市内医療機関において、最大規模という。同病院では昨年10月に脳卒中センターを開設し、急患対応とともに、専門医らの経験を積み上げてきた。脳卒中センター長の井上靖章脳神経外科部長は、「脳卒中の患者の治療は時間との勝負」とセンター開設の意義を説明。「SCU開設でより救える体制にできた」と話す。

脳卒中センターの実績をみると、柏市消防局などとの間で結んだ脳卒中疑いの救急搬送を受け入れるホットラインが、直近で月40件と開設当初の

2倍に達している。手術件数は、井上部長就任前の3年前と比べ2倍以上となっており、センター開設後の年間件数は600件以上に及ぶ。

井上部長は実績について、「潜在的な患者がいるということ」と説明する。新設されたSCUでも11月までの3か月の間、満床が続いている。

高齢化が進み（柏市日常圏域データによると、今年10月1日現在の高齢化率は25.97%）、脳卒中のリスクを負う患者の増加を見込む。脳卒中対応強化は喫緊の課題だ。SCUの設置基準は、臨床経験3年以上の脳外科医による24時間365日の常駐。SCU確保が難しいとされる理由だ。名戸ヶ谷病院では脳卒中センター開設に伴い、

医師や看護師ら専門スタッフの育成が進む。現在、SCU設置条件を満たす医師は7人おり、患者1人に対し、3人必要とされる看護師も充当。専門医すべてが同病院の勤務医のため、「外勤（外部の医師）がなく、患者の安心にもつながっている」と井上部長。

### 世界最高水準への一歩目

井上部長が描く脳神経外科のロールモデルは、米国アリゾナ州にあるパロー神経学研究所だ。井上部長は脳神経外科治療の世界最高水準とし、「あらゆる知見が集う脳

神経系のメッカ」。自身も米国最高峰の医療機関で腕を磨き、最高水準の医療を肌でしる井上部長は、名戸ヶ谷病院を日本のパローへと育てようという。その第一歩が脳卒中センターだ。「患者を救い、併せて人材育成でも貢献していく」と井上部長。

### 啓蒙にも注力

脳卒中センターでは、啓蒙活動にも積極的だ。「脳卒中 病気のコトを知って・予防しよう」と題した冊子を無料配布する。脳卒中の解説や予防のポイントなどが記載されている。柏レイソル選手による生活習慣予防運動や同病院リハビリテーション科による血管ストレッチを紹介。市内飲食店のヘルシーメニューや病院と共

関するあらゆるノウハウを蓄積し、包括的な医療を実現させる」と意欲をみせた。

同開発したメニューと、多角的な予防法が列記されている。井上部長は「医療に携わる者として、一番は病気になるな」と話す。

冊子は、希望する方に提供可能。問い合わせは、7167-8336 同病院まで。

◇ SCU：脳卒中ケアユニットの略称で、急性期の脳血管障害（脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など）を受け入れる専用病床。脳卒中の専門知識を持つ経験豊富な医師や看護師らスタッフの常駐が、設置条件。